

行政事業レビューシート (総務省)

予算事業名	国際会議等に必要経費(分担金・拠出金) (うち国際統計協会分担金)		事業開始年度	明治32年		作成責任者
担当部局庁	総務省政策統括官(統計基準担当)		担当課室	総務省政策統括官付統計企画管理官室		統計企画管理官 千野 雅人
会計区分	一般会計		上位政策	国際会議等に必要経費		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	無		関係する計画、通知等	国際統計協会規約、会費支払い請求通知		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際統計協会(International Statistical Institute)は、統計に関する国際協力とその進歩、発展を図ること、及び統計(手法を含む。)を開発・改善し、これを全世界に適用することを目的として1885年に設立された、世界130か国以上の政府中央統計機関等が加盟している世界的な統計組織である。我が国は1899年以降、毎回国際統計協会大会に出席し、最新の統計情報の入手と我が国の統計の国際発信に努めている。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>総務省が国際統計協会の団体会員及び職務会員として同協会へ会費を拠出しているもの。国際統計協会は、以下の事業を実施している。</p> <p>ア 世界各国の統計家の国際的団結、専門的知識の交換</p> <p>イ 統計の国際比較可能性促進のため、統計の作成者、利用者、関係団体の交流支援</p> <p>ウ 統計の高度な研究のための研修及び奨学金制度設立・維持</p> <p>エ 統計理論の研究、統計手法及び統計実務の評価、統計的研究の奨励及び統計的手法の利用促進</p>					
実施状況	<p>国際統計協会大会は、原則隔年で開催されており、我が国は明治32年の第7回オスロ大会以降毎回参加している(第二次世界大戦直後の第25回ワシントン大会除く)。</p> <p>最近では平成21年8月、南アフリカのダーバンで第57回大会が開催され、統計に関する論文発表の場である科学会合を中心に101の分科会に分かれて討議が行われた。そのうち我が国は、公的統計に関する分科会で議長を勤め、統計に関する各国からの発表や提言のまとめ役となったほか、「国家統計体系の観点」をテーマとした分科会では、「日本における公的統計のための新しい統計体系」と題するプレゼンテーションを行った。また、これらの会議出席のほか、同協会からニューズレター等により情報提供を受けている。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2
	執行額	0.3	0.3	0.3		
	執行率	100%	100%	100%		
	総事業費(執行ベース)	0.3	0.3	0.3		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	当該団体の規約に基づき執行委員会は、総会(全会員対象)に毎年会計報告を提出している。				
	見直しの余地	我が国が各国の統計関係者との交流を深め、また最新の統計情報の入手、我が国の情報発信を図るため、国際統計協会に継続して加入することとし、今後とも経費の用途については会計報告により把握することとしたい。				
予算監視の効率	現行または見直し案どおり					
補記	<p>会員は、個人会員と団体会員の二種類があるが、総務省は我が国の政府中央統計機関として団体会員に、政策統括官(統計基準担当)と統計局長が個人会員のうち職務会員(各国政府及び国際機関の統計部局の特定の職にある者)になっている。(年会費は2,000ユーロ(1団体、2個人会員まで同一料金)である。)</p>					

総務省  
0.3百万円



【分担金】

A. 国際統計協会  
0.3百万円

国際統計協会事業の運営

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出さ  
 れている者につ  
 いて記載する。  
 使途と費目の  
 双方で実情が  
 分かるように  
 記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
会費	国際統計協会事業の運営	0.3			
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0